

豊中市立第十二中学校 3年 進路だより！

NAVIGATOR

2020. 6. 25



進路学習！

総合の時間を使っての進路学習が先週から始まっています。「進路を決めるにあたっての大切なこと」や「進路の実現に向けて努力すること」などを考えましたね。中学校を卒業した後、どのような進路を歩んでいくのかを考えていく大切な1年です。おうちの人や先生に相談しながら、真剣に考えていきましょう！考える第一歩として、オープンスクールなどにも積極的に参加しましょう！

第1回進路希望調査について

今日、みなさんは、各担任の先生から、『第1回進路希望調査』と書いた薄緑色のプリントをもらいましたね。おうちでよく相談して、各担任の先生へ、**7月2日(木)までに提出**してください。

『進路希望調査』は、みなさんの進路先をこれから、みなさんと、家の人、そして、担任の先生をはじめとする先生たちと相談しながら、みなさん一人一人が納得でき、満足できるように考えていくための大切な資料のひとつです。来年、3月までの間に、何回か書いてもらいますが、今回は1回目ということで、まだ、具体的に考えていない人も多いかもしれません。しかし、この『第1回進路希望調査』を家の人と相談しながら書き込んでいく中で、そろそろ、自分の進もうとしている道を考えていってほしいと思います。具体的な進路先(学校名など)が書けない人がいるかもしれませんが、具体的な進路先(学校名など)は記入できる人のみ書いてください。「就職する」「進学する」のどちらかに○をつけるか、高校への進学で「私立高校のみ」「公立高校のみ」「私立、公立の併願」のいずれかに○をつけるだけでもかまいません。

ボールペンで記入し、印鑑を忘れないように…！

もっとも大切なのは、『みなさん自身の気持ち』です。家で相談する時、自分で思っていることがあれば、それは率直に、家の人と話してみてください。また、話をする中で、家の人やみなさんの進路を考えてくださっているかがわかってくるでしょう。

そして、これをもとにして、7月の三者懇談では、各担任の先生の意見や、アドバイスをもらいます。この懇談でしっかり話をして、目標を決め、中学校生活最後の夏休みをぜひ、有意義なものにして下さい。

保護者のみなさんへ

受験について保護者に留意していただきたいこと、家庭での進路指導について『進路の手びき』から抜粋させていただきます。これを参考にして進路についてお子さまと話をしていただければと思います。『進路の手びき』は来週からの進路学習に使います。『進路の手びき』は豊中市進路保障委員会が作成したものです。

受験で留意していただきたいこと。(保護者の留意点)

- (1) 進路の相談はすべて担任を通して行います。学校で生徒をもっともよく知っているのは担任です。担任は生徒の成績の動向や適性の実態をつかみ、さらに、進路指導委員会や学年会で生徒一人ひとりについて慎重に検討したことがらを説明し、必要な助言や指導をします。したがって担任だけの主観で説明するのではなく、また学級によって指導や助言に差が出ることをないようにしています。
- (2) 次のような事情があるときは、早いうちに担任に連絡して、相談してください。
 - ① 公立高校希望者で、住民登録では、本人と保護者が同居していない。また、住民登録上の異動が生じたとき。特に住民登録が他府県にまたがる時。
 - ② 公立・私立にかかわらず、他府県の高校を受験するとき。
 - ③ 音楽科・美術科・高等専門学校、その他特別な手続きや準備の必要な学校を受験するとき。
- (3) 「あの学校に入りたい」と願う保護者の気持ちはわかりますが、本人の学力、その他を考えないと失敗します。「ここだけがよく、他はわるい。」などと思いつめさせるのは、指導の大きなまちがいです。「A高校までが高校、どんなことがあってもA高校まで」というような言い方はしないでください。本人の個性や適性にあった高校を選んでください。
- (4) 「中学校浪人してもよい。」とか「最後は定時制・就職だ。」などといった安易な考え方、誤った考え方をもたせないでください。「中学浪人」は決してよい結果をもたらしません。
- (5) 無理してあまりにも遠い学校に通うのは弊害が多く、必ずしもよい結果をもたらすとは限りません。豊中市内にある地域の学校を育てることも考えてください。
- (6) 余暇の活動、クラブ活動などを活発にさせてください。決して受験のさまたげにはなりません。むしろ良い効果をあげますし、長い人生にとって重要なことです。
- (7) 塾に行く必要はありませんが、現在行っている生徒には、次のことを検討させてください。
 - ① 塾の内容に追われて、平素の学校の学習がおろそかになったり、心理的に余裕をなくしていたり、学習態度が自主性を失って、受け身になったりしていませんか。
 - ② 塾を息抜きと社交の場にして、生活態度をくずしていませんか。
 - ③ 目先のことにとらわれて、進路への正しい考え方、生きる目標を誤っていませんか。

家庭での進路指導

- (1) なんでもうちとけあえ、じっくり話し合える家庭を。
 - ① じっくり話し合える家庭での人間関係が何よりも大切です。
 - ② わが子の良さを見つけましょう。叱るだけではだめです。「勉強しなさい！」だけではかえってマイナスになります。
 - ③ 団らんの機会を多く持ち、話題は勉強と成績だけに集中しないようにしてください。
- (2) 子ども中心の生活にならないように
- (3) 子どもの能力や適性を知り、未来や人生について考えさせてください。
 - ① わが子の成績や適性をふまえた進路を考えさせてください。
 - ② 子どもの能力や適性を一番よく知っているのは保護者です。いいところを伸ばしてください。
 - ③ 学校や家庭外で、どんな友だちとどんな過ごし方をしているかを確かめることが大切です。
 - ④ 基本的な生活習慣を身につけることが学習の土台です。
 - ⑤ 「背のび受験」などは、後々に大きな影響を与えます。
 - ⑥ 入ったら何とかなる、入試は時の運、いちかばちか勝負する、等の指導はやめてください。
- (4) 自分で進路決定ができるように、保護者と学校が協力を。